

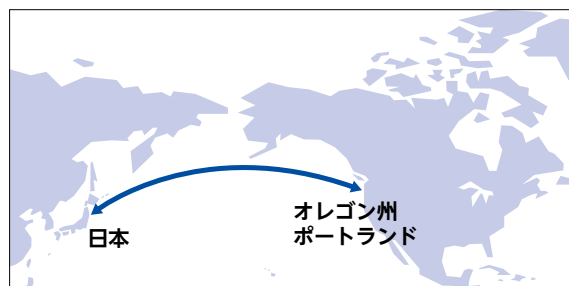
米国・オレゴン州ポートランドを訪ねて ～「ぶぎん若手経営塾」第2回海外視察ツアーを終えて～

ぶぎん地域経済研究所は5月15日～20日まで4泊6日の日程で、ぶぎん若手経営塾・第2回海外視察を実施しました。今回の視察は、近年、「人や環境にやさしいまちづくり」「食文化の新しいトレンドの発信地」として日本でも注目を集めている、米国オレゴン州・ポートランドを訪ねました。参加者は事務局を含めて14名で、現地の若手経営者との交流会開催をはじめ、企業視察、現地経済動向に関するブリーフィングなどが行われました。

【スケジュール概要】

視察日程：2017年5月15日（月）～20日（土）

5月15日	移動	東京（成田）⇒ポートランド 市内視察
5月16日	ポートランド	ビジネスオレゴン、PDC 市内視察 若手経営者交流会
5月17日	ポートランド	Danner Boots AJINOMOTO WINDSOR INC Made at PDX 3 Companies 計5社 視察
5月18日	ポートランド	NIKE世界本社視察 ワイナリー 2軒訪問
5月19日	移動	ポートランド⇒東京（成田）
5月20日	帰国	



経済ブリーフィング&市内視察

滞在2日目、オレゴン州経済開発局（Business Oregon）事務所で、オレゴン州やポートランド市などの経済状況や産業特性、地域活性化事業等についてプレゼンテーションを受講し、参加者間の知識の共有を図りました。まず、オレゴン州経済開発局、グローバル・トレードスペシャリストのトム・ディコルチャ氏よりオレゴン州の投資環境について話を伺いました。対米投資を考える日本企業にとって、オレゴン州が最適な環境にある一例として、電力や人件費の安さ、州政府が用意する税制優遇策や充実した企業活動への支援体制などについて紹介されました。



オレゴン州経済開発局
トム・ディコルチャ氏

次にポートランド市都市開発局に勤務されている日本人スタッフの山崎満広さんからポートランド市のまちづくりの取り組みの歴史や地域活性化事業の特徴について説明を受けました。山崎氏からは、1970年代に“公害都市”と言われたポートランドが、その後、市民の声を反映させる形で、高速道路を撤去し、跡地に市民の憩いの場となる遊歩道の敷設や市内への車両の



PDC・山崎さん

進入を制限する一方、新たな市民の足として、路面電車である「ライトレール」を敷設した経緯などが説明されました。

ブリーフィング終了後は、山崎さんの案内でダウンタウンを視察しました。環境を配慮しながらビジネスエリアの活性化に取り組んできたポートランド市の施策について、実際の現場を見ながら説明を受けました。また、実際に「ライトレール」に乗車し、環境対策だけでなく、気軽に利用できる市民の足として広く支持された乗り物であることを実感しました。



市内中心部を走るライトレール



山崎氏の案内による市内視察



ブリーフィングを熱心に聞く視察メンバー

日米経営者交流会

滞在2日目の夕刻、ポートランドのベンチャー・中小企業の商品を展示、販売するアンテナショップ「Made Here PDX」を借り切り、現地若手経営者との交流会が行われました。ポートランド側は企業経営者8人が参加。会が始まると、双方の参加者が自己紹介を行い、その後、フリーディスカッションとなりました。話題は、ポートランドで製造された商品の品質に対する意見や新規事業を始める際の資金調達の方法など多岐にわたり、米国ではベンチャー企業の資金調達について、クラウドファンディングが気軽に利用されているという実態に、参加者から「大いに参考になった」という声が多数聞かれました。「Made Here PDX」は日本の自治体が運営する“アンテナショップ”的な位置づけで、バッグ、化粧品、洋服、食品など様々な品物が販売されています。



「Made Here PDX」で記念撮影



経営者による自己紹介の風景

企業視察

滞在3日目、4日目は主に企業視察と流通視察が行われました。

【企業視察1：NIKE WORLD HEADQUARTERS】

ポートランド近郊、ビーバートン市にグローバル本社を構えるNIKE WORLD HEADQUARTERSを訪問しました。林や川も流れる広大な敷地には、ゴルフのタイガー・ウッズ選手やバスケットボールのマイケル・ジョーダン選手など世界で活躍した著名なスポーツ選手の名前をあしらった建物が並び、それぞれの建物1階には選手由来のシューズやウエアが展示されていました。ナイキの歴史については、1976年開催のモントリオール五輪で、米国代表の陸上選手として活躍され、現在はナイキのツアーディレクターであるシンディ・プアーさんに解説を頂きました。



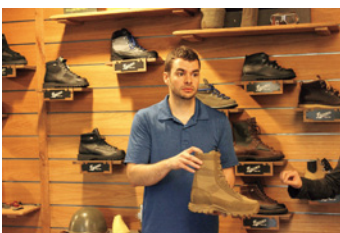
NIKE世界本社の外観



モントリオールオリンピック(1976年)に陸上短距離で出場したシンディさん(左)

【企業視察2：DannerBoots】

アウトドアブーツの世界的メーカー、Daneer Bootsの本社兼工場を視察しました。同社は米国の3大高級ブーツメーカーの1社で日本でもアウトドアなどに愛好者が多いことで知られています。2012年に、日本のエービーシー・マートがダナーブーツの親会社でナスダック上場のラクロス・フットウェア(オレゴン州)を事業買収し、現在は日本企業となっています。工場ではエービーシー・マート取締役の服部喜一郎さんはじめ大勢の従業員の方が視察団一行を迎えて下さいました。米国では全人口の「3人に1人」がブーツを所持し、それぞれが自分



ダナーブーツ本社で説明を受ける

のお気に入りブーツを持っているという説明に一同驚きました。工場ではおよそ120種類のブーツが生産され、主に米国市場向けに出荷されています。ブーツの原料素材には、“アメリカンレザー”と呼ばれる牛革が採用され、全ての革をコンピュータで1枚ごとにスキャンニングして、5段階の品質チェックを経て商品化する厳しい管理の元、商品が作られている様子を見学しました。

【企業視察3：AJINOMOTO WINDSOR INC】

味の素の米国子会社で冷凍食品を生産するAJINOMOTO WINDSOR INCを訪問しました。副社長の塩島朋幸さんから企業概要や米国戦略について説明後、工場内を視察しました。工場内では、ギョーザ、シューマイ、焼きそばなど日本で馴染みのある商品が手際よく生産され、出来上がった商品が次々と大型の冷凍装置にベルトコンベアを伝って流れていく様子を見学しました。同工場で

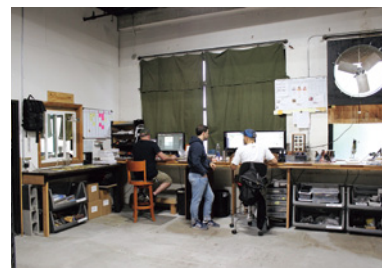


味の素冷凍食品の工場視察風景

生産された商品は、多くが西海岸を中心としたアジア系スーパーに出荷されているそうです。また、塩島さんからは日本国内で販売されている“クノール”ブランドのコーンスープに使われるコーンパウダーの半分以上がオレゴン州内の契約農家で生産され、日本に輸出されているという話しもうかがいました。

【企業視察4：SHWOOD EYEWEAR】

米国初のフレームに木を使用したメガネメーカーとして2010年に立ち上げたベンチャー企業を訪問しました。社長のリャン・カークパトリックさんが大学の同級生5人で出資して立ち上げた企業で、クルミの木を材料に試行錯誤の末に商品化しました。野球の木製バットをリサイクルして材料にするケースもあるという説明に参加者一同感嘆しました。レンズには日本製を使用し、日本でも高級品として販売されています。



木製メガネメーカーの設計部門風景

【企業視察5：Woodblock Chocolate】

「Been to bar」ブランドのチョコレートを製造するベンチャー企業。2007年に夫婦2人で始め、豆の厳選からオーナーがこだわり、マダガスカル、タンザニア、エクアドル、ペルーの4つの国の豆を原料に使っています。オーナー自ら農園に足を運んで、カカオ豆の育成を視察するなど自社商品へのこだわりを持っています。現在、ポートランドではカカオが健康ブームの火付け役になっていて、チョコレート以外にカカオ豆を買い求める客も増えているそうです。

【企業視察6：SPECIALTY POLYMERS,INC】

創業1969年の化学企業で、「ポリマー」と呼ばれる石油を原料にした精製品を生産しています。主な用途は建築資材で液体原料として提供しています。創業2代目社長のシェソル・サウスウェルさんから企業概要と製品説明を受け、その後、工場視察を行いました。化学工場らしく、敷地内の各所に原料タンクが並べられ、出来上がった製品はトレーラーや工場敷地内に引き込まれた線路から専用車両で各地に出荷されている様子が伺えました。

【流通視察】

企業視察の合間に、オレゴンで人気のスーパー3軒を視察しました。そのうちの1社、「WinCo FOODS」は、日本でも見られる食品中心のスーパーですが、従業員全員が株主というユニークな経営形態を採用しています。従業員のモチベーションを高めることで業績に反映させる狙いから取り入れたもので、参加者からは「日本でもいずれこうした流通形態が入ってくるのだろうか」と関心の声も聞かれました。



従業員全員がオーナーの地元スーパー

■最終日 オレゴンで活躍する2人の日本人女性を訪ねて

視察最終日の午後はワイナリーを訪問しました。オレゴン州はワインの産地としても知られ、“オレゴン・ワイン”として、ピノ・ノワールやピノ・グリなどの品種が広く生産されています。参加者はポートランド市中心部から南に車で1時間半ほど離れたワイナリーを訪ねました。広大な土地に2軒のワイン農家があり、このうちの1軒、「ルーマン・ヴィンヤード」は、日本人女性が嫁いだワイナリーとして知られています。農園主、ルーマン・デニスさんと奥さんのルーマン・カオルさんが一行を出迎えてくれました。デニスさんは、1990年にワインカントリーの土地として約10ヘクタールを購入し、ゼロからワイナリーを作られたそうです。説明では自分の納得する品種づくりや、かつて英語教師として日本で働いていた時にカオルさんとの出会い、結婚に至った話などが披露されました。参加者はデニスさんの農園で作られたピノ・ノワールを味わいながら終始、和やかな雰囲気の中で説明に耳を傾けました。



広大なぶどう畑

ワイナリーを後にした一行は最後の夕食を「シェフナオコ」で戴きました。オーナーの田村なおこさんは、たまたま旅行で訪れたポートランドが気に入って、一念発起してポートランド市内で和食の事業を立ち上げました。保存料や添加物を使用しないオーガニックメニューを売り物にした料理が話題を呼び、当初はケータリングが中心のビジネスから、現在はレストランを経営するほか、2017年春からはデルタ航空のポートランド発成田行き機内食としても採用されています。レストランでは田村さんの和食に賭ける想いを聞きながら、最後の夜を楽しみました。



かおる・ルーマンさん（左端）を囲んで女性陣で撮影



海外視察ツアー参加者一同

参加者（敬称略）

会社名	氏名
株式会社阿部製作所	広川 一樹
株式会社阿部製作所	本田 俊也
ACS株式会社	魚本 信一郎
サムライ・ギルド株式会社	早上 鉄平多
鈴ヤ商事株式会社	鈴木 雅晴
株式会社スーパーヤオフジ	小宮山 直子
株式会社タガミ・サンビューティー	坂東 信行
株式会社タガミ・サンビューティー	坂東 秀俊
ツルゲン情報株式会社	三上 文子
武蔵野銀行	長崎 進
武蔵野銀行	小森谷 賢一
双日ツーリスト株式会社	勢多 功太郎
株式会社ぶぎん地域経済研究所	澤田 勉
株式会社ぶぎん地域経済研究所	藤坂 浩司